

第462回鉄鋼流通問題懇談会

2023年7月27日（木）14：30

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟第1会議室」

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
 - 大阪、新潟、福井地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇7月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：井上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 鉄流懇会長挨拶
5. その他

○次回以降会議予定

2023年10月27日（金）14：30～

於：茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟第1会議室」

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	兼松トレーディング
1. 需給動向（景況感）	6月度の特約店販売状況は、日当たりペースで前年同月比▲10%程度と荷動きはよくない環境が継続。年初からの大型建築案件は堅調、中小建築案件は低調という構図に大きな変化無し。秋口から新規建築案件が動き出すとの話が聞こえてくるものの実態としては不透明。価格動向については、溶協メーカーは各社概ね店売り向け+80円/kgの値上げを実行済。特約店再販価格に関し、浦安地区においては、各品種前月から変動無し。高炉品黒ガス管については追加の値上げが想定され、各社当用買いに徹しているものの、足下追加のアナウンスは聞こえてこない状況。	2023年5月末薄板三品在庫（速報値）は、前月比1.8%増の404万2千トンとなり、4ヶ月ぶりに増加した。在庫内訳はメーカー在庫が前月比7万2千トン増の171万5千トン、問屋在庫が同1万5千トン減の85万3千トン、コイルセンター在庫が同1万5千トン増の147万3千トンとなった。在庫率は2.84ヶ月となり前月比0.24ポイント減少した。メーカーの減産懸念により、三品在庫は4月末に400万トンを割ったが、5月は季節要因で増加した。半導体不足の緩和により自動車生産が回復基調にあるが、その他製造業分野では海外景気の下振れリスクによる外需の減少も見られる。建機関連では戸建て住宅や非住宅中小規模物件は低迷が続き、全体として需要不足の状態が継続している。安値輸入鋼材の入着増加と、東京製鉄の7月契約販価の値下げにより、店売り市況は弱含み、様子見の状態となっている。	月末の全国厚中板在庫は464千トンで前月比1,717トン減。出荷量が受け入れ量を上回り、2ヶ月連続の在庫減となった。在庫率は全国ベースでは前月比5.4ポイント下がり278.5%となった。在庫減少傾向にあるが、適正在庫率と言われる200%を依然上回っている状況。需要に関して、建機分野ではマイニング分野は引き続き好調、アメリカ住宅向けミニショベルなどの需要はピークアウト。24年度は若干の需要減の見込みではあるが、全体的には依然堅調。建築は引き続き中小案件が足元鈍く、大型再開発案件待ちの状況。人手不足もあり稼働率低い。産業機械関連は中国需要減退に伴い、荷動き悪い状況が続き、全体的に荷動きが悪いこともあり、供給面ではタイト感は感じられない。	棒鋼 資材高や人材不足による中小物件の中止、延期、また、需要家のゼネコンは手持ち案件の少なさや先安感から当用買いに徹しており、足元の引き合いは低調。関東地区の市況は、一部安値を提示した流通もあるが、横ばいを維持し踏ん張っている。関西地区は、メーカーの値下げの影響を受け、じり安となっている為、関東と関西との価格差が広がっている。形鋼 6月の需要少なく、引き合い低調だったが、7月に入っても変わらず低調に推移している。市中在庫は、適正水準にあるがタイト感はない。市況は、じり安傾向となっており、需要少ない事から、受注競争により安値が散見される。
2. 需要産業動向	【建築・土木】23年5月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+3.5%の6万9561戸となり、4ヵ月連続の増加となった。種別では、持家が1万8,853戸（▲11.5%）、分譲住宅が2万1,389戸（+9.1%）となった。（うち、マンションは9,700戸（+28.2%）、戸建て住宅は1万1,615戸（▲2.5%）と7ヵ月連続の減少、また、貸家は2万6,354戸（+9.4%）となった。【自動車】トヨタ自動車など国内の乗用車メーカー8社の5月の世界生産は、前年同月比+28%の204万7千台だった。生産は国内外ともに回復傾向が続き、8社合計の国内生産は+49%の59万台で、海外生産は+21%の145万台だった。【建機】5月の建設機械出荷金額は、内需は19.2%増加の792億円、外需は23.2%増加の2,020億円となった。【造船】3月の起工量は前年同月比28.0%減の62万G/Tと4ヵ月ぶりの減少となった。2022年度の起工量は前年度比0.7%増の878万G/T、3年ぶりの増加となった。4月の輸出船契約量は前年同月比66.6%減の64万G/Tと2ヵ月連続の減少となった。	2023年6月の自動車国内販売は、36万3千台（前年同月比21.4%増）と、10ヶ月連続のプラス。乗用車が30万5千台（同26.2%増）、トラックが5万7千台（同0.7%増）となった。5月の民生用電気機器の国内出荷金額は、2,025億円（同107%）と2ヶ月ぶりのプラスとなった。ルームエアコンは前年比2ヶ月ぶりのプラス、冷蔵庫は同4ヶ月連続のマイナス、洗濯機は同5ヶ月連続のプラスとなった。製品価格の上昇が出荷金額を押し上げており、洗濯機は過去最高の出荷金額となった。国土交通省より発表された、5月の新設住宅着工戸数は7.0万戸（同3.5%増）と4ヶ月ぶりに増加した。持家は減少したが、貸家及び分譲住宅が増加した。また、季節調整済年率換算値では前月比11.8%の増加となった。	造船の6月末輸出船手持工事量は2,234万GTで、5月比0.1%減となった。2023年度4-6月分の輸出船受注量は、前年同期比47%減の222万GTと246万GT減少。2023年度4-6月分の輸出通関量も、前年同月比16%減の171万GTと28万GT減少。これを受けて2023年6月末の輸出船手持工事は前年同期比2%減の2,234万GTと万46万GT減少。建設機械の5月の出荷金額は内需が792億（前年同月比19.2%増、外需が2,020億（同23.2%増）、合計2,812億円で前年同月比22.0%増となった。総合計では31ヶ月連続で増加。大手建機メーカー生産計画台数は前年比横ばいの見込み。産業機械の4月受注金額は内需が2,254億（前年同月比-15.8%減）、外需が928億（同-32.4%減）、合計3,182億円で前年同月比-15.8%減。機種別ではボイラ・原動機、タンク、ポンプ、圧縮機、送風機、通風機が堅調。建築に関しては、鉄骨数量は2022年度431万トン。前年度比7%減。2023年度は前年度並みか以下の見通し。足元中小物件は閑散としているが、再開発、物流倉庫、半導体等の大型案件が待っている。	5月の全建築物の着工床面積は、前年同月比7.3%減（前月比12.7%減）の899.4万㎡となった。構造別では、S造が前年同月比15.9%減（前月比26.5%減）の287.4万㎡、SRC造が、前年同月比50.1%減（前月比5.1%減）の15万㎡で、全床面積中のS造、SRC造の比率は33.6%。推定鉄骨需要量は前年同月比17.3%減（前月比26.1%減）の約29.5万トンとなった。5月の新設住宅着工戸数は、69,561戸。前年同月比3.5%増、4ヶ月ぶりの増加。新設住宅着工床面積は、5,487千㎡。前年同月比1.4%減。4ヶ月連続の減少。
3. 輸出入動向	2023年5月度鋼管輸出量 継目無鋼管：28,250トン（前月比+22.3%） 溶銲接鋼管：16,437トン（前月比+27.0%） 2023年5月度鋼管輸入量 継目無鋼管：1,291トン（前月比+15.1%） 溶銲接鋼管：10,489トン（前月比+20.7%）	5月の薄板三品輸入量は29万8千トン（前年同月比14.2%増）であった。主要品種別では、熱延が13万1千トン（同14.2%増）、冷延が8万1千トン（同18.1%）、亜鉛めっきが8万6千トン（同10.7%増）となった。5月末の輸入岸壁在庫は16万1千トンとなり、前月比で1万3千トン増加した。近海市況に比べ、日本国内の市況は大きく下がっておらず、韓国・台湾・中国ミルは自国内需の弱さもあって対日向けでの数量確保の方針が続き、関東では港湾倉庫保管能力がボトルネックで輸入鋼材入着の抑止効果になっているが、今後も30万トン程度の入着がしばらく続くこととみられる。	5月の輸入通関実績は前月比3千トン減の33千トン。中国からは2千トン、韓国が31千トン（前月比5千トン増）、台湾が15千トン（前月比3千トン増）となった。5月の輸出船積実績274千トン（前月比28千トン増）。中国向けで1千トン減、韓国向けは10千トン増、東南アジアでは30千トン増、欧州向けは10千トン増となった。	輸出 5月のH形鋼輸出数量は、1.6万トンで前月比25.6%減、前年同月比でも、40.8%減でともに減少した。2万トン割れは今年2月以来、韓国向けが減少。平均価格は、11.2万円/トンで前月比1.3万円高。5月の異形棒鋼輸出数量は、3.2万トンで前月比12.8%増となった。平均価格は、8.39万円/トンと前月比758円高。輸入 5月のH形鋼輸入量は、0.66万トンで前月比0.8%増と微増だが、2ヵ月連続0.6万トン台と増加傾向にある。仕入れ先は、韓国と中国の2か国で韓国から0.25万トン、中国から0.41万トンである。
4. 海外市場動向	原油価格続落。6月平均WTIは70.2\$／バレルとなり、3ヶ月前（3月平均73.4\$／バレル）に比して約6%下回った。米国リグカウント数も減少（6月最終週：674、3月最終週：765）し、油井管の在庫調整局面を迎えている為、相場弱含み。	世界鉄鋼協会がまとめた世界63カ国の5月の粗鋼生産量は前年同月比5.1%減の1億6,160万トンと2ヶ月連続の減少であった。中国は9,012万トンと2ヶ月連続の減少も、3ヶ月連続の9,000万トン越え。1-5月累計では前年同期比1.6%増となった。中国は、ゼロコロナ政策終了後の、期待された消費が伸び悩む中、若年層雇用が過去水準となるなど、経済指標は悪化している。不動産業の構造的な落ち込みと、製造業及びインフラ投資の減速影響で内需は振るわず、政府の経済対策が待たれる。粗鋼減産指示が一部地域で出ているが、大きな効果は出ていない。	中国の景気は持ち直してはいる。続落していた中国市況も底値をつき、反転の兆しはあったが、実需に伴っていなく、市況は依然低調。韓国も国内需要低迷が続き、造船業界もピッチが上がらない状況。韓国メーカー3社の23年1-4月の販売量は295万トンで前年同期比ほぼ変わらず、国内販売量は221万トンで前年同期比4.8%減少、輸出量は74万トンで前年同期比17.4%増加。	中国国内の鋼材需要を支える足元の経済状況をみると、不動産投資や民間投資の低迷が国内の景気回復に響いている。また、この時期は大雨被害に見舞われる地域が多く、需要は更に低下する。市中価格の動向は、ミルの減産の徹底にかかっており、多くのミルが7月に設備メンテナンスで休止する為、需給調整とこれだけ効果があるか。中国鉄鋼工業協会が調べた中国の鉄鋼相場によると、7月1週は、全品種で値上がりし、異形棒鋼が前週比で0.7%高、山形鋼が0.6%高となった。

鉄鋼流通問題懇談会（2023年7月）

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・6月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で前回（3月）調査比+4の+5と良化。部品の供給不足が徐々に解消されて自動車の生産が持ち直していることなどから7期振りの改善。先行きも+9と4ポイントの良化。23年度設備投資計画は大企業・製造業では前年度比+19.3%と、企業の投資意欲も底堅く推移。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門について、5月の小売業販売額は前年同月比+5.7%と15ヶ月連続の上昇。値上げ影響等もあり、上昇が継続。 ・製造部門では5月四輪車生産は前年同月比+48.4%と増加傾向が継続も、5月の機械受注は▲7.6%と2か月振りの減少。 ・建築部門では5月の全建築物建築着工床面積は899万㎡（前年同月比▲7.3%）と減少傾向が継続となった。 <p>（海外） 米国：米国は個人消費は底堅い一方で、インフレ長期化や利上げ影響による企業活動の下押し懸念が継続。 欧州：エネルギー価格の下落や資材調達難の緩和あるも、インフレ圧力や金融引き締め長期化による景気下押し圧力あり。 中国：景気の押し上げが図られるも、不動産市場の低迷、製造業の減速で内需が振るわず。景気回復ペースは一段と鈍化。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <p>（生産）・23年6月の粗鋼生産（速報）は733万tと前年同月比で18ヶ月連続の減少。 （出荷）・5月の普通鋼国内向け出荷は304万トンと16ヶ月振りの前月比増。 （在庫）・5月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は541万トン4ヶ月振りの前月比増。 ・5月末の薄板3品在庫は404万トン（前年同月+72万トン）で400万tレベルが継続。 ・5月末の厚板シャー在庫は40万トンで9か月連続の減少。</p>
2. 需要産業動向	<p>〔建築〕・5月の新設住宅着工戸数は7.0万戸（前年同月比+3.5%）で4ヶ月振りの増。持家は減も、貸家と分譲で増。 ・非住宅着工床面積は325万㎡（同▲17.0%）で4か月連続の減。工場、倉庫などで減。</p> <p>〔自動車〕・6月の国内販売（輸入車除く）は36.3万台（前年同月比+21.4%）。10か月連続の増加。 ・5月の完成車輸出は29.7万台（同+43.8%）で4か月連続の増。 ・5月の四輪生産は62.4万台（同+48.4%）で5ヶ月連続の増。</p> <p>〔造船〕・5月の新造船受注量は50万GT。手持工事量は2,235万GTと2千万台を維持。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕・5月の全鉄鋼輸出（速報）は283万トン（前年同月比▲8.6%）で2ヶ月振りの減。 〔輸入〕・5月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は43万トン（前年同月比+10.7%）と4ヶ月連続の増。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の世界粗鋼生産は1億6,160万トン（前年同月比▲5.1%）で2か月振りの減。 ・6月の中国粗鋼生産は9,111万トン（同+0.4%）。 ・6月の中国鋼材輸出は751万トン（同▲0.6%）。 ・中国市中在庫は、7月21日時点で1,116万t（同▲15%）。